



## 固有名とそれを一意に示す属性の集積

モノやヒトには、「東京スカイツリー」や「ジェローム・パウエル」など、それを指す名前がある。こうした固有名は、例えば「GDPが世界第3位の国の一番高い電波塔」とか、「GDPが世界第1位の国の中央銀行の議長」など、指示対象を一意に指す属性の集積と同じなのか、それとも異なるのか。ここでは、現実世界における対象を一意に示す属性の集積の存在は所与である<sup>1)</sup>とし、固有名に重複はなくどんな場合でも対象を一意に指すとしたうえで、人に焦点を絞って考えたい。

両者は異なるとする考え方の根拠が可能世界という概念である。可能世界とは、現実の世界以外で想定することができる世界で、例えばパウエルが現FRB議長でない世界を含む。

では、「現実世界を含む可能世界」をすべて想定した上で対象を一意に表現できる属性の集積はどうなるのか。「属性」を、人物を0と1で区分する機能（その属性があるかないかだけの区分機能）のみとして定義するとき、人物とその属性は現実世界を含む可能世界において下表のように表現できる。こ

属性	現実世界	可能世界1	可能世界2	...	可能世界 15-1
1	(ABCD)	(ABCD)	(ABCD)		(D)
2	(ABC)	(ABC)	(ABC)		(C)
3	(ABD)	(ABD)	(ABD)		(B)
...					
15	(D)	(C)	(B)		(ABCD)

ここでは、可能世界は現実世界において考えることのできた「属性」のみで想定できるものとしている（表は、現実世界で考え得る「属性」すべてを指定し、それら「属性」による人物を区分する組み合わせすべてを列挙したもの。ここでは $N=4$ とし、A,B,C,Dはそれぞれ個人・個人名を表している。人数を $N$ としたとき、「属性」は $(2^N-1)$ 個となる。また、現実世界および可能世界の個数は $(2^N-1)!$ 個となる。<sup>2)</sup>）。

ただし、このように表現が可能で、ある人物が現実世界を含むすべての可能世界で必ず存在しているとしても、ある人物がそれぞれの可能世界の何であるかという同一性の確保は難しい。というのも、人物を表す記号名を伏せた場合、ある可能世界におけるある区分は、現実世界のどの属性か特定することすらできないからだ。従って同一性を確保するためには固有名が存在が必要となる。可能世界まで念頭に置くと、無限という概念を除いてだが、いくらある対象の属性を集積したとしても、その対象は固有名とは異なることになる。

(中野 留里)

1) 表の現実世界の列においてすべての人物を区分する属性の組み合わせを選べば存在が示せる。

2)  $n! = n \cdot (n-1) \cdot (n-2) \cdot (n-3) \cdots 2 \cdot 1$